



すてきな「出会い」を探しに

# 婚活に行こう!

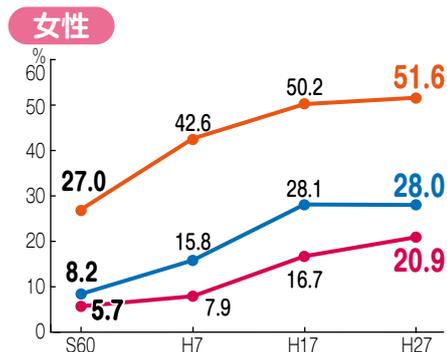
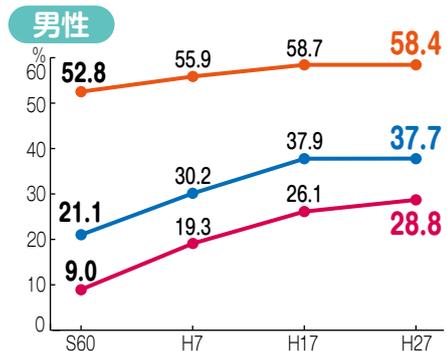
今や行政も婚活（結婚相手を見つける活動）を支援する時代。本市では、NPOなど各種団体と協働して婚活を支援しています。今回は、婚活を支援する意義や取り組みを紹介します。

◎問い合わせ 総合政策課 ☎ 23-7161

## 本市の年代別未婚率の推移

(出典) 統計から見た都城

25～29歳 30～34歳 35～39歳



近年、結婚観や価値観の変化により、全国的に結婚の先送り現象が見られ、未婚率が上昇しています。本市でも同じく未婚率が上昇していて、特に25～29歳の女性の未婚率では、昭和60年に比べ、平成27年は24.6割も高くなっています。また、平成26年度県民意識調査によると、独身者のうち、結婚を希望する人が9割を占めるものの、結婚したい相手に巡り合えないなどの理由で、独身でいる人も多く見られます。

さらに、日本では結婚してから子どもが生まれる場合が大半であるので、未婚率が増加すれば、子どもの出生数に影響を与えます。本市の合計特殊出生率は1.78と

「婚活」をなぜ市が支援するのか?

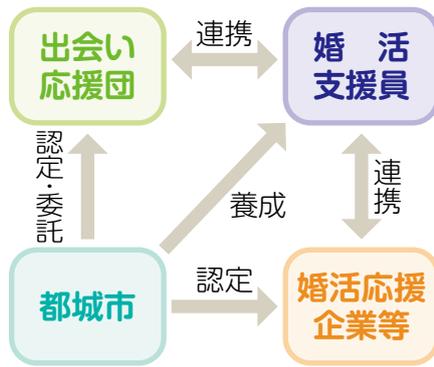
全国や県と比べ高い水準ですが、出生数は減少傾向にあります。これらの状況を踏まえ、本市は「都城市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標の一つに「都城で育てたいに応える若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」を掲げ、平成28年度から婚活支援に取り組んでいます。「婚活」を支援することで、その後の結婚や定住、出産、子育てへとつながり、「都城市の活性化」が実現します。

市の婚活支援は着実に実を結び始め、これまでの婚活イベントで128組のカップルが誕生し、うち4組が結婚しました。



**「婚活支援員」の養成**  
市では、地域において独身者の婚活を支援する「婚活支援員」を養成。婚活支援員は、結婚を取り巻く現状や結婚を希望する人への対応など、婚活支援に必要な知識を専門家から学び、地域で婚活の相談を受けています。

地域が一体となって出会いを応援!



市は、地域や企業などと連携して、出会いや婚活に関する支援を強化しています。

# 「出会い」をつくる 本市の婚活支援

**「都城市出会い応援団」を認定**

婚活支援に取り組むNPO法人などの民間団体を「都城市出会い応援団」として認定。これらの団体に、結婚までの課題などを解決するセミナーや、ワークショップを併せた婚活イベントを委託し、結婚を希望する人に対して、さまざまな出会いの場を提供しています。

出会い応援団の詳細情報は、市ホームページで確認ください。



**婚活イベントなどの情報配信**

婚活情報が必要としている人を対象とした「婚活情報メール配信サービス」を開始。登録した人に市や都城市出会い応援団が主催・実施するイベント情報などを配信しています。

登録を希望する人は「メール配信サービス」で手続きください。



**「都城市婚活応援企業等」を認定**

結婚を希望する従業員を応援する企業や団体を「都城市婚活応援企業等」として認定。その担当者に、市内で開催される婚活イベントなどの情報提供や研修を実施しています。



認定証交付式に参加した都城市婚活応援企業など

婚活するなら都城へ!

平成29年8月から、本市の地域おこし協力隊に着任し、婚活事業に取り組んでいます。婚活が身近な自分だからこそできる支援があると思ひ、協力隊に応募しました。

着任して驚いたのは、婚活というデリケートな問題に、想像以上にさまざまな形で行政が関わっていたこと。婚活を支援する「出会い応援団」や「婚活応援企業等」の皆さんと関わる中で、市の婚活支援が、ゆくゆくは本市への定住や出産、子育てなどへとつながり、まち全体の活力となることを実感しました。

また、結婚を希望する人は、婚活だけでなく子育て環境などの情報も求めています。独身者の皆さんに「婚活の先」へ進んでもらえるよう、今後も取り組んでいきます。



地域おこし協力隊（婚活担当）  
西山 久瑠美さん



# 「出会いの場」をつくる応援団



市と協働で、さまざまな形での出会いを演出している「都城市出会い応援団」。結婚を希望する人の意見を聞きながら、イベントなどを企画しています。

## 「出会いたい」をくみ取る

市内の独身者の中には、結婚願望はあるものの、「仕事が忙しい」「出会い場がない」「気恥ずかしい」「自分に自信がない」など環境的・内面的な理由から婚活に踏み出しにくいという意見が聞かれます。



出会い応援団は、これらの意見を参考にイベントを企画。「集団お見合い」のような婚活イベントだけでなく、料理や食事を一緒にしたり、旅行や映画鑑賞をしたりするなどの体験型イベントや、話し方や食事マナーなどの内面を磨くセミナーなどを実施し、婚活に参加しやすい環境を提供しています。

また、本人だけでなく、自分の子の結婚に悩む親への相談に応じる出会い応援団もあります。

# 「ドキドキ」から始まる「出会い」を

4年前から婚活をサポートする「クロスナイト」。代表の徳重さんに話を聞きました。

## Q 始めたきっかけは？

ヘアメイクをして、おしゃれに着こなした女性が、ドキドキできる場所を都城に作りたいたい、始めました。

## Q イベントの内容は？

「参加しやすい婚活」をテーマにイベントを企画。話し掛けるのが苦手な人も話せるように「ツーショットタイム」を設けています。また、おしゃれな空間でおいしい食事を楽しむなど特別感を演出しています。

## Q 特徴的な取り組みは？

希望者には、婚活イベント前無料でヘアメイクを行います。また、服のコーディネートが分からない人には、買い物に同行しアドバイスをしています。



クロスナイト代表  
徳重 健太郎さん

## Q 心掛けていることは？

参加者には、事前に必ず連絡を取り、希望や不安などを聞き、「コミュニケーションを深めること」を心掛けています。

## Q やりがいを感じる点は？

自分の長所に気付いていない人のメイクや服装をサポートすると、表情にも変化が出てきます。自信を持ち、すてきに变化していく様子が見えます。

## Q 今後の予定は？

スポーツやレクリエーションなどを楽しむ婚活イベント「遊ぶ×トキメク 恋レク」を、3月18日(日)、勤労青少年体育センター(姫城町)で開催します。遊びながら気の合う人を見つけるイベントなので、ぜひ、参加してみてください。



恋レク

START

市内で開催された婚活イベントに参加した、婚活初心者の男女2人。参加してみて、感じたことを聞きました。



20代女性

私は、セミナーとレクリエーションを組み合わせたイベントに参加しました。セミナーでは、良い第一印象の与え方などを学び、自分の服装や価値観を見直すきっかけとなりました。グループで協力して1位を目指すレクリエーションでは、自然と会話も弾みました。また、おいしいスイーツも食べることができ、楽しい時間を過ごせました。

これまで、「婚活＝お見合い」のような敷居の高さを感じていましたが、まずは「楽しむ」を目的に気軽に参加してみようと思いました。



30代男性

私が参加したイベントは、市内の観光地などをバスで巡る日帰りツアー。「初参加」かつ「内気な性格」なので、お見合い型イベントは緊張してしまうと思い、ツアー型イベントを選びました。

バス移動では、隣席の女性と話す時間が設けられていて、司会の積極的な声掛けもあり、初対面でも会話が弾みました。参加前に思っていた「積極的な人向けのイベント」という先入観は、払拭されました。イベント後に、気になる人の連絡先の交換もでき、大変満足しています。



「婚活初心者」&  
「成婚カップル」

インタビュー

↓  
私たち  
結婚しました!



NPO法人「田舎暮らしみやざき生活応援団」のイベントで出会い、2月に結婚したカップルに話を聞きました。

♥参加したきっかけは?

通っていたヨガ教室の福元先生が婚活支援員もしていて、それぞれに婚活イベントへ声を掛けてくれました。

♥参加したイベント内容は?

コミュニケーション講座の後、食事をしながら歓談しました。告白タイムなどがなく、気軽に楽しめました。

♥結婚の決め手は?

デートを重ねるうちに、趣味を楽しむところや考え方が、互いに似ていると思いました。何より2人で一緒にいて楽しいことが決め手です。



山下 輝彦さん・文子さん (早水町)

♥出会い応援団への感想

福元先生やスタッフが、イベント後に誘うきっかけを作ってくれたので感謝しています。

♥結婚を希望する人へ一言

「婚活」と気を張らず、知り合いが広がるぐらいの軽い気持ちで参加すると、すてきな出会いがあると思います。ぜひ、参加してみてください。



トピック

本市では、幸せな二人の結婚の門出に華を添える「ご当地婚姻届」を制作しました。4月2日(月)から利用できます。二人のアルバムの1ページに「都城市の婚姻届」を加えてみませんか。

# 西郷隆盛 直筆の書が

## 寄贈されました！



### 西郷の書と山内哲正の関係

1月12日、柳田喜美子さん（東町）から西郷隆盛直筆の書（II南州書）が市に寄贈されました。この書は、柳田さんの祖父山内哲正（てくしょう）が、西南戦争での戦功によって西郷から直接譲り受けたものです。今回は、この書に書かれている内容やその価値を紹介します。

◎問い合わせ  
都城島津邸 ☎23-2116



山内 哲正

青年時代の山内哲正（1856～1945、現在の蔵原町出身）は、西郷が創設に関わった鹿児島（1877）に起こった西南戦争に、西郷軍として参加。熊本県宇土での戦功を賞し、西郷自らが哲正にこの書を直接与えました。その後、哲正が宇土から都城へ帰還し、都城にこの書が残りました。明治17年（1884）に蔵馬場（現蔵原町）で医院を開業した哲正は、都城町会議員や北諸郡郡会議員、都城北諸郡医師会理事などの要職を歴任。地域行政と医業の発展に尽力しました。また、都

城市営電気株式会社を創設した他、都城演芸や都城魚菜市場の経営発展に寄与するなど、都城の産業振興にも大きく貢献しました。



西南戦争 都城隊士の墓（鹿児島市南洲神社）

### 書の歴史的価値

西郷が、大久保利通や木戸孝允（たかよし）と共に、明治維新に最も貢献した「維新の三傑」であり多くの人が知っていること、そして、現在も非常に人気が高いことから、西郷が残したとされる作品は偽物が多く出回っています。この書はその中で、「西南戦争時に哲正が西郷から直接譲り受けた」という由来が明確で、筆跡も間違いのないことを理由に、西郷南州顕彰館から本物であるとの鑑定を受けました。

そして、西郷と直接関係があった人が都城にいたということを示すものでもあり、大変貴重な史料です。

## 書の形状と状態

和紙に書かれたこの書は、掛軸になっていきます。書が書かれている本紙の寸法は、縦128センチ、横58センチで、掛軸全体では、長さが215センチと大きなものです。

本紙自体は大変良好な状態ですが、140年もの長い年月が経過していることから、掛軸部分に破損などがあるため、修復をする必要があります。

## 書の内容

この書には、平安時代後期（11世紀半ごろ）に東北地方で起こった「前九年の役」における、源氏の八幡太郎義家（源義家）の取った行動にあやかった内容が書かれ、後に「八幡公」という表題が付けられています。

東北地方を支配するようになった安部氏を制圧するため、朝廷は源頼義を陸奥守と鎮守府将軍に任

命して派遣しました。頼義の長子である義家は、その際に従軍しています。当代随一の武者と評された義家は、敵であった安部貞任の目の前で一眠りしてしまうほどの豪胆であったという逸話も残されています。

この逸話を基に、西郷は「天下第一の武者」義家の勇敢さにあやかるとともに、この書を西南戦争の激戦の最中にしたためたと考えられています。

## 【本文】

数年征戦不謀功自  
作干城膽滿射更憶  
微行花巷夜悠然  
一睡壓兇雄 南洲

## 【読み】

数年の征戦功を謀らず、自ら干城と作りて膽射に満つ、更に憶う微行・花巷の夜、悠然一睡して兇雄を壓せしを 南洲

## 【口語訳】

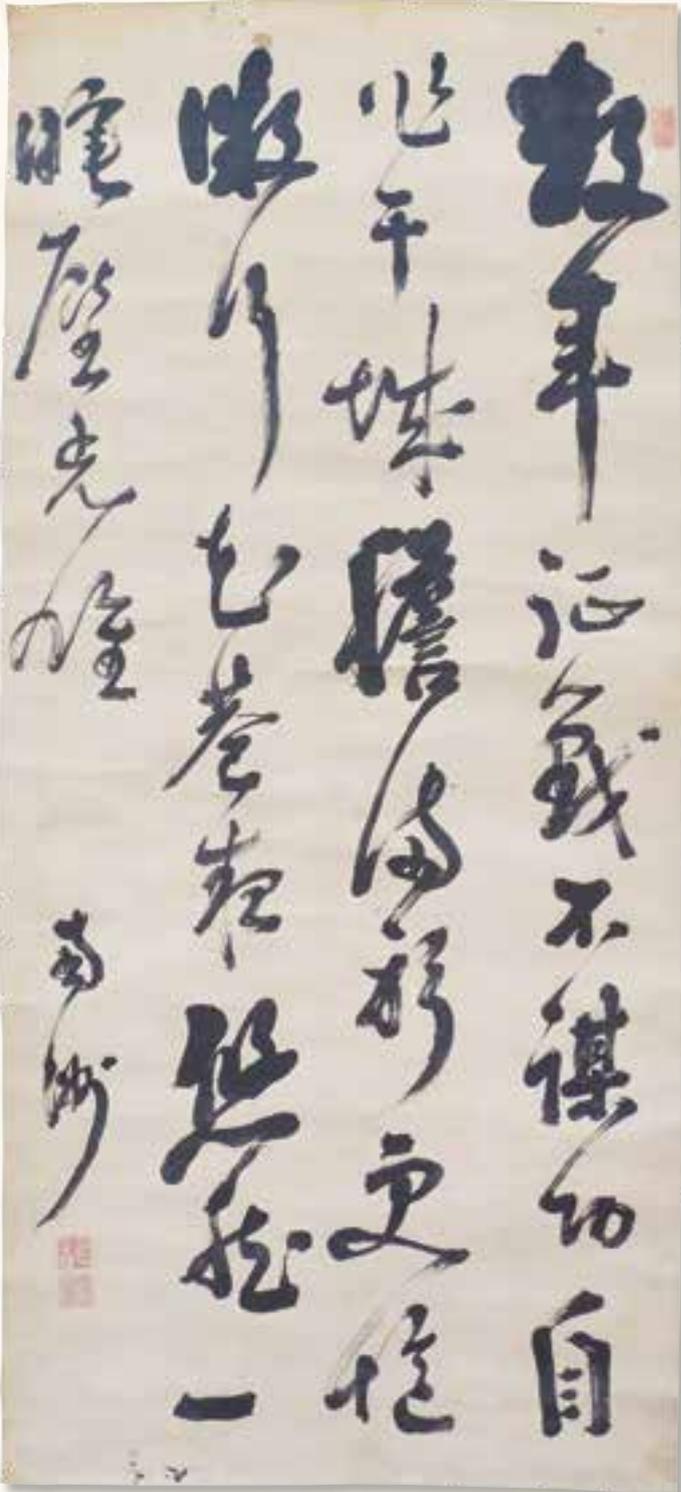
八幡公源義家は、長年の戦争に自分の手柄を誇ることなく、自ら朝廷の盾となって、敵に動じず勇敢だった。

そして、京の花街をお忍びで楽しんだ夜に、同行した安部貞任の前で悠然と一眠りした義家の大胆さには、感服するものだ。

## 今後の展示など

この貴重な史料を未来へつなぐため、修復を行います。その後、「明治維新150年」に当たる平成30年度に展示公開を計画しています。

南洲書の持つ歴史的価値を、ぜひ、堪能ください。



寄贈された書（西郷隆盛が号した「南洲」が最後に記される）